



第 82 号

平成 30 年 10 月 1 日
長崎県公立高等学校
PTA 連合会
長崎市竹の久保町 12 番 9 号
電話 095 (861) 3146
FAX 095 (861) 3147
印刷 川口印刷 (株)
電話 095 (838) 2181

県公立高等学校PTA連合会

定期総会開催

県連会長に小柳義則氏（長崎東高等学校PTA会長）が就任

本年度の定期総会は、県内七九単のPTA会長、校長等一五八名が出席して、五月三十一日（木）、長崎市のセントヒル長崎で開催されました。

午前中は正副会長、理事、会、四委員会、午後から定期総会、教育懇談会と終日熱心な協議が行われました。

開会行事では、石本仁太郎会長の挨拶の後、来賓としてご臨席いただいた池松誠二教育長からご祝辞をいただきました。その要旨を一部紹介します。

平成三〇年度長崎県公立高等学校PTA連合会定期総会が多くの皆様方のご出席のもと、盛大に開催されましたこと、お喜び申し上げます。皆様方には、日頃から子どもたちの健全育成及び本県教育の発展のため、ご尽力をいただいておりますことに、敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

本県では「長崎県総合計画チャレンジ2020」や、「第二期長崎県教育振興基本計画」に基づき、ふるさと長崎県を発展させ、わが国や世界を成長に導くことができる人材育成を目指すことが国や世界を成長に導くことができる人材育成を目指すことが、様々な施策を推進しているところです。具体的には、本県PTA活動の中核を担う皆様との緊密な連

携、協働が不可欠でありますので、本年度の主な取組について五方面をお話させていただきます。皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。（以下要点的に記載）

①「児童生徒の支援体制の充実」について

生徒が抱える諸課題には、子どもたちの心理状況や子どもを取り巻く環境等が大きく影響することから、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置拡充とともに、二四時間体制の電話相談、メールによる相談など、教育相談体制の充実を努めております。また、「啓発リーフレット」や「長崎県児童生徒の社会的・規範意識に関する調査研究」パンフレットの積極的な活用をお願いいたします。さらに、障害のある子どもにもない子どもにも共に学ぶ「インクルーシブ教育システム」の構築が進む中、通級による指導を県立高等学校三校で実施し、多様な学びの場を整備してまいります。

②「学力向上」について

高等学校の学習指導要領が次年度から先行実施され、平成三三年一月には大学入試共通テストも予定されています。予備校や塾に代り、生きていくうえで基礎となる「確かな学力」、文化や価値観の異なる人々と

情報や考えを伝え合うコミュニケーション能力や課題を見つけて解決の道を探っていく力が求められます。これらに対応するため「長崎県 未来の創り手プラン」として、「聞く・読む・話す・書く」の英語4技能を効率的に向上させるための指導法及び学習法を構築してまいります。

③「社会総がかりで子どもを育てる体制の構築」について

学校と家庭、地域が、子育ての目標を共有しながら、立場や世代を超えて子どもたちを育む体制を構築することは、子どもたちの豊かな成長に不可欠なものであります。教職員、保護者、地域住民が、連携・協働して「社会総がかりでの教育」の具現化に向け、より一層努めてまいります。

④「ふるさと教育の推進」について

県立学校に、キャリアサポートスタッフを配置し、キャリア教育や就職支援の充実を図っております。今年三月卒業の公立高校卒業生の就職内定率は、九八・八％であり、県内就職割合は六〇％となっております。ふるさと教育をより一層強化し、ふるさとに対する愛着と誇り、ふるさとに貢献したいという意欲を生徒に醸成すること、で

若者のふるさと定着へとつなげていきたいと考えております。

⑤「県立高等学校の教育改革」について

中学校卒業者の減少傾向は今後も継続する見込みです。「第三期長崎県高校改革推進会議」を設置し、県立高等学校の教育改革の在り方や適正配置等に関する基本的な考え方について議論をお願いしたいと考えております。

PTAの皆様には、今後とも学校・家庭・地域のネットワークの中核として、子どもたちの健全な成長のために、ご尽力いただくとともに、大人同士のつながりや学びの中心として、地域の活性化にも寄与していただきますよう、よろしくお願いいたします。



定期総会行事

一 平成二九年事業、会計決算報告、監査報告
二 役員承認
三 新会長として、長崎東高等学校PTA会長 小柳義則氏が選出されました。新役員名は四面に記載。

三 平成三〇年度事業計画案、会計予算案の審議
以上の案件は全会一致で原案どおり承認されました。

表彰

多年にわたり各単P会長を務め、今年退任された七名の方々に表彰状を贈り、それぞれのご功績を讃えました。（受賞者は四面に記載）併せて、平成二九年年度広報紙コンクール表彰も行いました。

第一回委員会報告

各委員会とも、昨年度からの引継事項や懸案事項を受け、新年度の活動方針を定め、当面する課題等について、熱心に協議が行われました。

総務委員会
委員長 石田浩一（大村）

教育懇談会

定期総会後の教育懇談会では、スマホ世代の子どもたちを健全に育てることを考えるための講演がありました。

講演「LINEのご紹介と子どもがインターネットを利用する際の注意事項」
講師 浅子 秀樹先生（LINE長崎県教育委員会事務局）

LINEの成り立ちや仕組み、利用の実態等について具体的な例をあげながら分かりやすくお話ししていただきました。「この後どうなる？」の問いに「ネットとつながることを考えることができた。ネットトラブルを防ぐためには、自立を目指した「家庭でのルール作り」「親子のコミュニケーション」「親のコミニケーション」がカギとなるキーワードを頂きました。



副委員長 松下太郎

主な協議議題は「次年度県高P連のスローガンについて」「PTA総会の出席率向上に向けた取り組み事例」「教員の働き方改革」

健全育成委員会
委員長 小柳義則（長崎東）
副委員長 長池泰昌（島原）

主な協議議題は「朝の挨拶運動」「スマートフォンの指導について」

進路対策委員会
委員長 坂本浩一（猶興館）
副委員長 齊藤弥寿孝（香岐商業）

主な協議議題は「新規高等学校卒業予定者に対する雇用の確保について」「キャリアサポートスタッフによる講話」「進路に関するアンケート」は九高P連進路対策委員会の状況に応じて取り組む

調査広報委員会
委員長 片山廣道（五島）
副委員長 八並 学

主な協議議題は「広報紙コンクールの実施について」

「心の根」

長崎県公立高等学校PTA連合会会長

小柳義則
（長崎東高等学校PTA会長）



ある方が言いました。「思い立った時、実現の可能性はほぼゼロだった。考えることさえ無駄だと諦めかけた時『あなたにはパワーがある。お父さんよりもきっと』という母の言葉を思い出し、やれることをしよう」と思い返した。と。彼女の父親は社会的影響力のある人でした。根拠はわかりませんが母親がそう信じて伝えたことは数十年の後に生きています。不可能と思えた試みは現実味を帯びているそうです。

「立場が人を作る」ということを実感している方は多いかと思いますが。どのように見なされ、どのように扱われるか、そして自分が自分をどのようにならざるを得ないものか、人それぞれに近づくものではないかと。子どもたちに対する私たちの言葉や態度はどのように働いているのでしょうか。

九高P連連縄大会においてお話し下さった青少年の更生に努めておられる元法務教官の方が心掛けていたのは二つ、子どもの話を聴くことと信じて後押しすることだそう。

私たちは子どもの話を聴けているでしょうか。感じている思いを受け止めているでしょうか。今の、そして未来の子どもを信じて背中を押すことが出来ているでしょうか。子どもを思うがゆえに心配やアドバイスばかり口にしていないでしょうか。「大丈夫か。今のままで大丈夫か。あれやこれをした方がいい」と。しかしこれらは現状やそのままだと子どもを肯定する言葉ではありません。そのような言葉ばかりだとしたら、ダメな自分をより強く認識し、自分を低くみなすようになりはしないでしょうか。

さて、私は本年度初めて県高P連会長を務めさせていただきます。働きの中では熱い思いで教育に携わる多くの方々から学ぶことが多くあります。経験や考えは様々で教育の在り方も幾通りもあるかと思えます。だからこそ共に聴き学び合う姿勢を持って連携して行けたらと思います。どうぞよろしくお願致します。

平成二八年文部科学省作成の自己肯定感についての資料に「自分自身に満足しているか」との問いがあり、

ごあいさつ

長崎県教育庁 教育次長 本田 道明



会員の皆様には、日頃から生徒の健やかな成長のため、各地でPTA活動に御尽力いただき厚くお礼申し上げます。

この度長崎県公立高等学校PTA連合会元会長の栗林宏光様、鈴木茂之様の永年のPTA活動の御功績が認められ、PTA活動振興功労者表彰を受賞されましたことに心からお祝い申し上げます。

また、小柳会長におかれましては六月から新会長に就任され県内のPTA活動を推進されておられますことに心から敬意を表します。

さて、高度情報化・グローバル化の進展、少子高齢化や産業構造の変化等、社会の変化はめざましく、教育を取り巻く環境も大きく変化しております。そのような中、今年三月に次期高等学校学習指導要領が示され、高校教育改革の内容が明らかになりました。

これからの教育で重要となるのは「社会に開かれた教育課程」の実現です。子どもたちが社会と世界の状況を幅広く視野に入れ、社会や世界に向き合い、関わりながら自らの人生を切り

拓き、よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創り出すことが求められています。この実現には、家庭・地域と学校がパートナーとして連携・協働していくことが必要不可欠です。

地域行事への参加や伝統芸能の継承、地域課題についての行政や地域住民との意見交換、防災活動への協力、地元小・中学生に対する学習支援、ボランティア活動など、地域と連携した積極的な活動が高校生の今後にとって大変有意義なものとなります。

そして、家庭や地域で保護者や住民と、地域に根ざした学習や体験活動を通じて多様な学びの中で、子どもたちは成長し、今後の社会を生き抜く力の育成につながり、生涯にわたって探究を深める未来の創り手となります。

今日、家庭や地域の教育力は低下しているといわれますが、家庭・地域と学校が連携・協働するために、PTAが活発な活動を支援することで、家庭や地域の教育力を高め、子どもたちの成長につながり、地域の活性化にも貢献できるのではないのでしょうか。

PTAの皆様には引き続き、子どもたちの自立への支援、学校や地域との連携、家庭や地域における社会教育の推進を柱として、学校教育の充実やPTA活動の活性化に向けて、お力添えいただきますようお願いいたします。

第六二回

九高P連大会 結 沖縄大会報告

九高P連大会は六月一四日(木)パシフィックホテル沖縄、二五日(金)沖縄コンベンションセンター・宜野湾市立体育館において「絆! 呼び起こそう ゆいまるの心」未来を担う子ども達のために「を」をテーマに、九州各県から二六三名の参加を得て盛大に開催されました。本県からは一六〇名が参加しました。

○一日目・委員会(委員会・四委員会・理事会・総会)
○二日目・分科会・全体会・記念講演

「なぜ、少年院で人生が変わるのか?」日本子ども未来機構代表 武藤杜夫氏(元法務省沖縄少年院法務教官)

各分科会の様子は、参加された調査広報委員の方々から報告していただきます。

第一分科会

「青少年の健全育成とPTA活動」

佐世保東翔高等学校PTA会長 八並 学



(第一分科会)

発で、地域行事に子どもたちと参加する新たな取り組みを始めた。

長崎県立老岐商業高校は、地区PTAで一〇〇%の出席率を誇り、地域性を生かし、垣根を超えた連携の重要性が強調された。

大分県立安心院高校は、PTA会長を教育熱の高いこの地域から選出。幾度も訪れた廃校の危機を乗り越え、特色ある学校作りに邁進している。

地元、沖縄県立豊見城南高校は七つの専門部で構成、挨拶運動や夜間該当歩道など健全育成の視点に立った活動が目立った。

講師では、よりよい社会の後輩を育成する為に「ちゃんと見ているよ」というメッセージを残すことが大切だと締めくくられた。

第二分科会

「進路指導とPTA活動」

五島高等学校PTA会長 片山 廣道

第二分科会では、子ども達が自分の能力や適性、将来の目標や生き方を考え、希望進路を実現する上で、PTAが支援できる方策について四本の発表がありました。

宮崎県立日向工業高校のPTAによる県内企業への視察研修の実施。鹿児島県立奄美高校の同校卒業の先生方が自身の進路選択の経験を語るPTA新聞での「百周年記念座談会」の企画。熊本県立天草拓心高校の天草の発展を話題にした生徒代表と育友会役員との意見交換会の開催。佐賀県立伊万里農林高校の就職率100%を目指し、企業の実際の面接官を招いたPTA主体の模擬面接会の実施。

どの発表も親として子どもの進路に関心をもち、実際に行動する取組として印象深いものでした。

第三分科会

「防災教育とPTA活動」

五島高等学校PTA会長 片山 廣道

第三分科会では、まずコーディネーターでスクील・アドバイス・ネットワーク理事長の生重幸恵氏より、少子高齢化・グローバル化が進む日本社会において、子ども達の学び続ける力・非認知能力の重要性を指摘する基調講演があり、四名のパネリストによる発表と協議が行われました。

地域の水産物を使ったPTAの農業祭パザールでの取組、子育て支援としての制服のリユース事業、生徒が社長となった地域興しの会社の設立などユニークな報告に感銘を受けるとともに社長を務めた沖縄県立北山高校の片岡潮風君の「夢と仕事を結びつけないでほしい。子どもは機械ではない。子どもはくせにという言葉を使わないで」という発言に頼もしさを覚えました。

家庭で語る「ふるさとの未来」

長崎県教育庁 生涯学習課 課長 山口 千樹



PTA会員の皆様におかれましては、日頃からの各校の教育活動へのご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、このところの報道によると、本県の人口は減少の一途であり、特に、若者の県外流出には、歯止めがかからないようです。

私も三月まで離島の高校におりましたが、島全体の人口の急速な減少、特に若者の減少に伴う社会の担い手不足への大きな不安をひしひしと感じました。

地元に残ったり、将来地元に戻ってくる人材を育成しなければならぬと考えました。そこで、島内の別の高校や県の出先機関、市役所、商工会などの関係部局と対策を話し合い、できることから実行しました。思うような成果を残すことはできませんでしたが、

それは、多くの高校生が入学時に進路の大きな道筋を決めているからです。地元を離れ

るつもりを生徒の決断を覆すことは容易なことではありません。また、保護者や教師にとって、「地元を離れて広い世界を見てみたい」「自分の力がどこまで通用するか挑戦したい」という子どもの気持ちは、絶ち難いものがあります。

ただ、このまま手をこまねいているだけでは、長崎県の若者は減少していく一方です。地元に残りたい、戻ってきたいという子どもを増やしたいのです。

そこで、ご家庭で地元のすばらしさや大切さ、ご自分がどのような思いを持って地域で暮らしているかなどを、お子さまとじっくり話していただきたいと思います。地元に残ることを強制して欲しいということではありません。人生の先輩として「ふるさとの未来」について語っていただきたいのです。その上で、子どもたちには自分の進路を決めて欲しいと思っています。

今後も、会員の皆様のご協力によって、充実したPTA活動が実践されますことを期待しております。

全国高等学校PTA連合会表彰

成長の支え

平戸高校は平戸島の中央に位置する、緑に囲まれた学校です。全校生徒は百名と小規模ですが、生徒・先生・保護者の距離が近く、PTA活動も活発に行われています。

体育祭では一週間前の除草作業に始まり、当日は、綱引きや女子生徒が踊る田助ハイヤ節への参加、ジュース販売などの活動を行います。特に綱引きでは予定数を超えるほどの保護者が参加して盛り上がりま

す。また、プロの調理師を招いた「親と子のお料理教室」では、地元で捕れる魚を使った料理やお菓子を作ります。和気あいあいとした雰囲気

で親子の絆を深められるとたいへん好評です。

夏の校内球技大会にはPTAチームが参戦します。今年度はソフトボール競技の優勝チームと対戦し、いい汗を流しました。

「生き生きとした生徒を育てる平高PTA」のスローガンのもと、これからも子供の成長の支えとなる活動を続けたいと思います。

平戸高等学校PTA



球技大会PTAチーム



親子のお料理教室



同窓会も参加するPTAバザー



マラソン大会の炊き出し

希望が丘高等特別支援学校育成会

本校は、県下唯一の高等部単独校として、知的障害のある生徒が在籍し、保護者と地域と協力しながら卒業後、希望進路一〇〇％実現を目指しています。

PTA活動の主な取組は、三役以外に将来の進路の参考に企業見学会を企画する進路部、文化祭のバザーを企画するバザー部、そして本校広報誌として地域の名産品に由来する「ざぼん」の編集を行う広報部があります。これからは生徒を中心に学校・家庭・地域と一体になって将来の職業生活を目指してあらゆる支援や関係機関との連携を推し進めていきたいと思っています。

皆様の深いご理解とご支援をお願いします。

祝団体表彰

九州地区高等学校PTA連合会表彰

子供達を見守る瞳（め）

本校は長崎市の南端、小高い丘の上に建つ小・中・高一貫の知的障害のある児童生徒が学ぶ特別支援学校です。眼前に青い海が広がる自然豊かな環境の中で、子ども達はのびのびと活動しています。

PTAの活動として、研修・広報・文化・環境整備・管理の五つの専門部があります。各部が円滑に活動でき、すべての会員が一度は必ずPTA活動に参加し、保護者間の親睦を深め、ネットワークの構築を図っていくよう努めています。異なる学部・学年の保護者が、共に活動を行い、同じ時間を過ごすうちに自然と会話がはずみ、お互いの理解が深まってきました。コミュニケーションが広がり、連帯感が強まることで、我が子だけではなく他の子ども達にも目を向けていけるような組織作りを心がけています。

これからは学校にまかせっきりにするのではなく、保護者も深い団結力をもって、子ども達の成長を見守っていききたいと思っています。

鶴南特別支援学校PTA



除草作業



研修会

チームワークの良さが自慢

私達の大村高校育友会は、毎年二月初旬頃に行っている校内マラソン大会で、子ども達に豚汁をつくって振る舞っている活動が、育友会としての一番の活動になっています。

事前の準備から当日まで役員、評議員および保護者の方の協力を得ながら、千食以上の豚汁をつくっています。

担当副会長の指揮のもと、野菜切り担当や鍋担当といったように各担当に分かれて、手際よく、和気藹々（わきあいあい）と作業をしています。もちろん、お父さん達の協力も大きな力となっています。

子ども達の中には、この豚汁を食べるためにマラソンを頑張るという生徒もおり、何杯もおかわりに来る生徒もいて、子ども達の喜ぶ笑顔を見ると、私達も自然に笑顔になります。

もちろん、作業後には、懇親会も計画し、参加していただいた保護者の皆さんと親睦をはかり、さらにチームワークを深めています。

大村高等学校育友会



チームワーク



豚汁炊き出し

祝九高P連広報紙コンクール入賞

九州各県から提出された代表広報紙五紙、計四〇紙の中から最優秀賞一紙、優秀賞四紙、優良賞五紙が選ばれました。

本県から提出した諫早特別支援学校の広報紙「ふれあい」が優秀賞に選ばれ、第六二回九州地区高等学校PTA連合会大会 結 沖縄大会において表彰されました。なお、「ふれあい」は三年連続の優秀賞を受賞されています。

優秀賞

諫早特別支援学校PTA

「ふれあい」



本年度の長崎県公立高等学校PTA連合会広報紙コンクールのご案内も各校へお送りしておりますので、多くの学校から応募していただきますようお願いいたします。

[illegible]